

## 第10回日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会 埼玉・東京全国大会 「なにができるか？脳損傷者、新しい生活様式 ～Withコロナ時代～」



### - 大会長挨拶 -

埼玉・東京大会大会長 友井 規幸  
(NPO 法人日本失語症協議会)

本学会における第10回全国大会は2020年6月に三重県で開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの影響により中止となり、改めまして、2021年6月26日・27日、変則的ではありますが、「埼玉・東京全国大会」として、オンライン（YouTube、Zoomなど）で開催する運びとなりました。

世界中で蔓延している新型コロナウイルスは、日本全体の経済活動から、私たちの生活に至るまで、さまざまところに影響を及ぼしています。そこで、当学会における「2021年埼玉・東京全国大会」では、脳損傷者（代筆者は、家族またはサポートしている方）を対象に、「新型コロナウイルスの影響による困り事や心配事に関するアンケート」を実施し、大会での報告を予定しています。また、長引く自粛生活の中で、新しい活動として展開し取り組んでいる力強い報告を予定しています。

埼玉・東京全国大会では、10数名の障害の方、支援者が実行委員として参加し、2020年8月から、隔週で実行委員会を開いております。コロナ禍の中、脳損傷の方々の活動等中止せざるを得ず、プログラム企画にも制約が生じますが、withコロナ時代を反映した大会となるよう実行委員一同準備し、皆様の参加をお待ちしております。

第10回日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会  
埼玉・東京全国大会

**大会テーマ**

なにができるか？  
脳損傷者 新しい生活様式  
～withコロナ時代～

参加無料  
(オンライン版)

大会長：友井規幸(NPO法人日本失語症協議会)

顔：仲俣寛也(高次脳機能障害(失語症)、右半身麻痺)

---

**Web配信 事前申込必須**

**2021年6月26日(土) 13:30～16:00**

- 基調講演
- 教育講演
- コロナ禍における脳損傷者の困り事、心配事
- ・アンケート結果
- ・当事者、家族、支援者から

一般演題

---

**6月27日(日) 13:30～16:00**

- 私たちの新しい生活
- ・埼玉、東京、地方から報告
- 教育講演
- 学会委員会活動報告

一般演題

---

日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会 主催 / (一社) 日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会  
後援(予定) / (財) 日本失語症協議会、(一社) 日本失語症協議会、NPO法人日本失語症協議会、NPO法人日本失語症協議会  
協賛 / (一社) 日本脳卒中患者の会、(一社) 日本リハビリテーション病院・施設協会、(一社) 全国アイケア協会、(公) 日本理学療法士協会、(一社) 日本作業療法士協会、(一社) 日本聴覚障害者協会、(一社) 日本訪問リハビリテーション協会、(一社) 日本聴覚協会、(一社) 東京聴覚協会、(一社) 全国老人保健施設協会、(一社) 回復期リハビリテーション病棟協会、(一社) 日本介護支援専門員協会、(一社) 日本在宅ケア学会、NPO法人東京高次脳機能障害協議会、協力/NPO法人Reジョブ大阪

【お問い合わせ】  
日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会事務局 TEL:03-5432-9338  
〒154-0002 東京都世田谷区下馬2-22-11小畑ビル101 http://www.caring-jp.com/  
三軒茶屋内科リハビリテーションクリニック内 caringcommunity2021.2@gmail.com

### 【アンケート 15 の質問項目】

- 1 友人との交流について
- 2 当事者会や家族会などに参加するにあたって
- 3 相談相手について
- 4 仕事・学校・施設について
- 5 通勤・通学・通所について
- 6 オンライン(zoomなど)への参加について
- 7 収入や支出について
- 8 体力面について
- 9 精神面について
- 10 日常生活の過ごし方について
- 11 余暇の過ごし方について
- 12 コロナの感染そのものについて
- 13 病院(定期検査や緊急など)について
- 14 リハビリ・ヘルパー支援について
- 15 ご自身の脳損傷の症状や後遺症について

- ・ 日 時 ; 2021年6/26 (土)、6/27 (日) 各日13:30～16:00
- ・ 開催方法 ; オンライン(YouTube)配信形式
- ・ 申 込 ; googleフォームより申込 (<https://forms.gle/e9bBTkcD5reZCGK97>)
- ・ 申込期間 ; 2021年4月20日(火)～6月18日(金)



※日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会では大きく分けて五つの委員会が活動しています。  
今回は各委員会がどのような活動をしているのかを特集しました。

## 研究委員会

### 主体性研究

主体性委員会は、脳損傷者のリハビリテーションの促進要因として注目されていながら、非常に複雑な内容をもっていると考えられる「主体性」の概念をめぐって研究を行っている。

研究の1つは、専門職や当事者の体験をもとに「主体性」の意味とその構成要素を整理することである。これは2015年より定期的に議論していたもので、当面の結果については論文の形で発表した。

もう1つは、脳損傷者の「主体性」を評価する検査の開発であり、2019年度にベータ版を作成して、暫定的に50人ほどのデータを収集した。結果を分析したものは、2020年度にリハビリテーション関係の学会において発表した。

次の研究課題は、上で述べた質問票の試行経験をもとに質問票の内容や実施方法を改善した上で、全国の多様な医療機関において広く実施し、幅広くデータを集めることである。その結果の分析をもとに、脳損傷当事者の体験における「主体性」の再構築過程をモデル化し、それを促進するための実践のありかたを検討したいと考えている。

### TOOL 研究



TOOL 委員会は、福祉用具や様々な機器が、障がいのある人やその支援者にとって、生活をより豊かに・便利にし、その人だけにある特別な意味を持つものになってほしいと願っています。

これまで、福祉用具の利用状況や腰痛対策の取り組みなどの調査と個別の福祉用具導入事例検討を継続して行い、福祉用具の導入に関する多面的な知見と影響を及ぼすであろう多くの因子に触れてきました。

福祉用具や様々な機器を使う人の生活に彩りが加わり、今までとは違った主体的な生活・異なる景色が見えるようになる。そのような用具の導入にはどのような支援が必要であるかを明らかにするために TOOL 委員会は活動しています。

#### ■主な活動

- ・事例検討会
- ・福祉用具導入と活用に関する調査

\* 2020年度はweb会議にて上記を実施しています。

### 機能評価研究

- ① 事例検討会を可能な限り毎月開催し、他職種による事例検討を積み重ね、コミュニティにおける障害当事者にまつわる様々な課題を議論する、時に当事者も参加しながら長い回復のプロセスから多くの気づきと個別であり、かつ共通な視点を共有できるようにする。
- ② 多くの参加者と共に、「国際生活機能分類 (ICF) を基に作成した事例検討シート (nearly-ICF : n-ICF)」を更に活用しながら事例検討を重ねる。
- ③ 事例提供者が増えない点を解決にむける。
- ④ 事例検討を通し継続した暮らしを、追い続けられるよう広く当研究会の活動を知ってもらい活用してもらえようとする。

#### ■主な活動

- ・月1回、会場を世田谷にある「ケアセンターふらっと」に置きながら定期的に事例検討会を開催している。現在 ZOOM 参加についても準備して、5月から可能な状態になる。
- ・一つの事例について、数か月後や数年度に経過や効果を再検討するなど継続性のある事例検討を行っている。
- ・事例検討会の内容や傾向、参加者の意見などをまとめてケアリングコミュニティ学会にて報告をしている。
- ・他県の関係機関からの要請に応じて、事例検討会の開催や書式の活用などを支援している。
- ・開催に関しては、ホームページ等でお知らせします。



現状の暮らしや将来の夢を語る当事者

多職種の参加者による意見交換

リハビリテーション医による脳画像の説明

記録者による「気づき」のまとめ

## 研修委員会

脳損傷の人々が地域において主体的な暮らしの実現及び脳損傷の人々がどのように改善するかなどに関して、専門的見地から市民・専門職者・当事者及び家族の知識・技術の向上を図る。

#### ■主な活動

コロナの影響から今年は「コーチング研修」を中止とし「脳損傷者お助けガイド」パンフレット作製に取り組んだ。

支援のためのパンフレットの内容とこれからの進め方：(1) 高次脳機能障害とせずに「脳損傷」全般のものにする。発症から社会復帰までのプロセスが全体でわかり、流れが見せられるよう成していく (2) 大人を想定していたが、子供の部分も別枠で入れる方向で検討する (3) 相談機関を入れる (4) 各担当者から執筆内容がでたら、内容を確認し、担当者に加えてもらいたい内容等を伝える調整者を置く。

## パンフレット内容（案）

- I はじめに
- II 脳損傷とは
- III 発症（入院）から生活再建までのプロセス・制度申請 \*コラム 入院中に起こる気持ちの変化
- IV 脳損傷者の臨床経過と後遺障害の特徴 \*コラム 高次脳機能障害と認知機能障害のちがい
- V 脳損傷者の症状別リハビリテーション支援 \*コラム ①心身機能を向上させるための秘訣 ②リハビリ専門職の活用法
- VI 心身機能に障がいが残ってしまったら…
  - i) 身体障害者手帳を申請しよう ii) 障害者総合支援法を知ろう iii) 介護保険制度を知ろう
- \*コラム 生活期を充実させるための大切なこと
- VII 知っているると便利な相談先と支援制度
  - \*コラム 就労支援の実際（一般の就労支援の他、レジリエンス：就労移行支援事で行われている工夫点）
- VIII 事例
- IX SOS カード

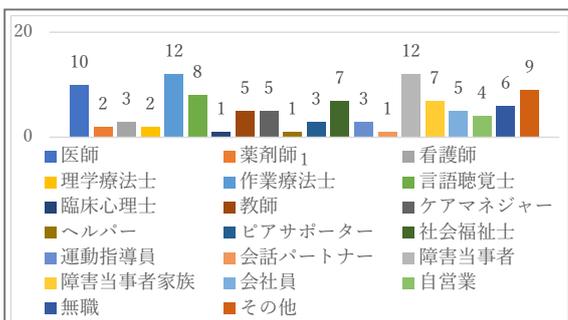
## 当事者社会参加推進委員会

月1回の委員会を開催してきたが、昨年9月よりZOOM会議に変更し、2020年度はコロナ感染症防止の為、「当事者社会参加推進委員会の研修会」は中止とした。

研修会中止のため、2020年度は、当学会会員として、どのような職種がどのような組織・グループで活動を行っているか調査し、今後の活動に役立てる為に、個人・団体含め当学会員について「アンケート調査」を実施した。167件に配布し48.5%の回収率であった。結果から様々な職種（複数回答あり）の方が参加していることが分った。

アンケートの「日ごろ感じている中途脳障害者の方にとって不便と思われること」の自由記載では、「不便というテーマについて」「不利益について」「社会資源の不足」「トータルな支援が得られない、仕組みがない」「行政サービスの情報の入手と利用申請の難しさ」など大きく24項目の回答が得られた。

また、委員会の活動の1つに「脳卒中者みずからが患者モデルとなり授業に参加する事業」があるが、2020年度はコロナの影響で、参加予定の学校5校のうち2校中止となり、3校に参加した。



※今年度秋以降に研修会予定

## 文化芸術スポーツ委員会

「文化・スポーツ・芸術委員会」では、スポーツとケアリング・コミュニティの関係性や主体性をテーマに議論してきました。そして、これまで限られたリハビリテーションセンターや一部地域、施設で実施されていたリハビリテーション・スポーツ（以下リハ・スポーツ）に着目し、これを全国に広げられないか？と構想しています。

リハ・スポーツは、スポーツの持つ特性を活用して、障害者の自立と社会参加を支援するプログラムです。スポーツの技術獲得を主たる目的としたスポーツ教室や身体的な機能・体力や運動能力の向上のみを目的とした活動とは異なり、時間が限定された医学的なリハビリテーションの範疇ではフォローしきれない心理的・社会的課題を持つ障害者を対象に、主体性を引き出し、仲間づくりを通じて社会性を（再）獲得することを主たる目的としています。

当委員会では高齢過疎化が進む静岡県西伊豆町でリハ・スポーツプログラムの支援を行い、参加者の主体的な活動の継続やスポーツを通じた施設間交流といった活動の定着に貢献することができましたが、昨年来のコロナ禍の中でこうした支援は中断せざるを得なくなりました。今後はコロナ禍におけるスポーツの意義や新たな様式での支援方法など改めて検討していかなければなりません。不本意ながら委員会の活動は現在ほぼ休止状態となっていますが、これらのことを踏まえて少しずつ活動を再開させていきたいと思っています。

### ■主な活動

- ① ケアコミ学会全国大会開催時の併設イベントとして、大会実行委員と連携したリハ・スポーツ体験会を実施。スポーツを通じた施設間の交流機会を創出します。
- ② 障害に配慮された社会資源が少ない地域を対象としたリハ・スポーツ教室の試行。施設・設備に依存しないプログラムの実施方法とコミュニティづくりの検証を行います。
- ③ その他の活動：リハ・スポーツ継続の動機付け、および、当事者間のコミュニケーション機会と生活の拡大を目的とした旅行機会の提案。



## 広報委員会

広報委員会では高次脳機能障害を含む脳損傷及び、日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会の周知活動、全国大会等、イベント時における広報活動を軸に内外部に向けて活動しています。

### ■主な活動

年に2回の『けあ・こみニュース』発刊に向けてのミーティングを始め、学会ホームページの更新、全国大会等のイベント時における広報活動を行っています。

\* 現在は、リモート等を使い随時情報を更新していく体制を検討中です。今後、原稿等の依頼時は、ご協力をよろしくお願い致します。

# 各委員会名簿

(五十音順 ※は委員長)

## 主体性研究（研究委員会）

名前	所属
※能智正博	東京大学大学院教育学研究科
磯貝政博	障害当事者
磯貝香苗	家族
小川彰	一般社団法人輝水会
川上亮子	看護小規模多機能ホーム型テレジア
川邊循	ケアセンターふらっと
木村奈緒子	東京医療学院大学
小林隆司	東京都立大学健康福祉学部
榑原正博	株式会社モノ・ウェルビーイング

名前	所属
白波瀬元道	永生会法人本部リハビリ統括管理部
中島鈴美	世田谷区高齢福祉部介護予防・地域支援課
長野澄子	障害当事者
長谷川幸子	一般社団法人日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会
長谷川幹	三軒茶屋内科リハビリテーションクリニック
藤井か代子	デイサービス夢子
藤田真樹	川崎市南部リハビリテーションセンター
細田満和子	星槎大学
増田司	国際医療福祉大学三田病院

## TOOL 研究（研究委員会）

名前	所属
※小林央	太田市立病院
青木量二	にじ工房
田中節子	フリーランス
筒井順	ケアセンターふらっと
中村広子	株式会社モリトー

名前	所属
皆方伸	秋田大学附属病院
森島勝美	株式会社モリトー
渡部禎一	ホームケア COCOLO
和田敏子	ケアセンターふらっと

## 機能評価研究（研究委員会）

名前	所属
※川邊循	ケアセンターふらっと
田中節子	フリーランス
長田乾	医療法人社団緑成会横浜総合病院

名前	所属
藤井か代子	デイサービス夢子
山内聡	ケアセンターふらっと
和田敏子	ケアセンターふらっと

## 研修委員会

名前	所属
※長谷川幸子	一般社団法人日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会
飯泉亮	介護老人保健施設 ハートフル田無
高橋博之	医療法人社団 慶悠会 三尾整形外科

名前	所属
藤田真樹	川崎市南部リハビリテーションセンター
宮脇健	古河総合病院
山田貴一	リハビリデイサービスきらら大森

## 当事者社会参加推進委員会

名前	所属
※長谷川幸子	一般社団法人日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会
川尻美佐緒	障害当事者 足立区障がい福祉センターピアサポーター
佐木敏郎	障害当事者

名前	所属
佐藤大也	障害当事者
下沢寛美	障害当事者 独協医科大学埼玉医療センター
蟹江敬三	協力施設：レジリエンス就労移行支援事業所

## 文化芸術スポーツ委員会

名前	所属
※宮地秀行	障害者スポーツ文化センター横浜ラポール
榑原正博	株式会社モノ・ウェルビーイング

名前	所属
手塚由美	一般社団法人輝水会

## 広報委員会

名前	所属
※中島鈴美	世田谷区高齢福祉部介護予防・地域支援課
荒井隆浩	大田区高次脳機能障害当事者会『楽花』
井堂愛子	脳梗塞リハビリセンター

名前	所属
根本佳奈	初台リハビリテーション病院 サポート部
濱出昌子	家族・NPO 法人おおば福祉会非常勤
山田幸恵	リハビリ・サロン とまり木

## 編集後記

随分と前の話になりますが、「外に出ても車椅子からの目線は今までと違う自分で、余計に現実を突き詰められる」と病気になるまで外にでる事に強く抵抗があったAさん。そんなAさんが、何年かぶりに友人と会うことになったが、再会したその瞬間に以前の空間がよみがえり、今までのでわだかまりが一気に消えたと話してくれた。人と会えること、つながることがどれほど大切で力があるのか教えてくれた一言だった。この1年、気軽に人と会い集うことがどのくらいあっただろうか。

- 中島 鈴美 -